

中之条町歴史と民俗の博物館「ミュゼ」 令和四年度第二回企画展

木曾義仲落人伝説

旭将軍義仲と

鎌倉殿頼朝が残したものの

令和4年 4月22日(金)▼8月31日(水)

画・高橋キヤス



ミュゼ / Musée

中之条町 歴史と民俗の博物館
Nakanajo Museum of Folk and History



開館時間 9:00～17:00 (入館は16:30まで)

休館日 木曜日
ただし祝日5月5日(木・こどもの日)、8月11日(木・山の日)は開館

駐車場 博物館敷地内 (乗用車10台)

入館料 大人200円(160円)、子ども100円(80円)

※()内は20名以上の団体料金

※障がい者手帳をお持ちの方と介護者1名は無料

〒377-0424

群馬県吾妻郡中之条町大字中之条町947-1

TEL 0279-75-1922

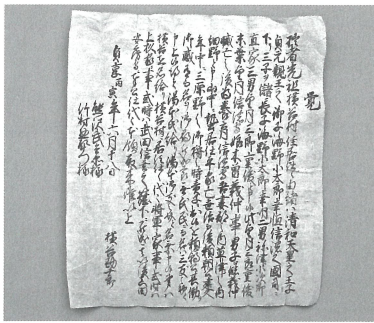
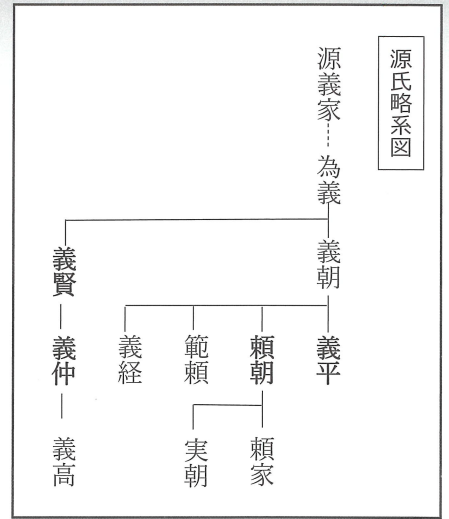
<http://www.town.nakanajo.gunma.jp/musee/>

木曾義仲落人伝説

義仲は平安時代末期の1154年（久寿元年）、源義賢の二男として東国に生まれた。翌年、従兄頼朝の兄義平に父を殺され、追っ手を逃れた義仲は信濃の木曾谷で成人した。25年後の1180年（治承四年）、頼朝に呼応して平家討伐の旗を揚げ、3年足らずで平家一門を都落ちさせた。1184年（元暦元年）に征夷大将軍となり旭将軍と称したが、頼朝の命を受けた義経らに敗れ琵琶湖畔で討死した。

中之条町入山には、義仲が幼少期に木曾谷から更に山深い入山の世立集落の首領に預けられたという伝説がある。村民は義仲軍に加わり、敗戦後は落人となって草津温泉や入山地区で暮らしたという。1193年（建久四年）頼朝は浅間山麓三原野で巻狩りを行ったというが、実は義仲の残党狩りだったとの説がある。

これらは根拠のない昔話ではなく、確かな伝承と史実の反映が見られる。



湯本・横谷先祖由緒書

1686年（貞享三年）に横谷氏が代官熊沢・竹村両氏に提出した先祖由緒書。先祖の細野御殿介は義仲に仕えたが、娘が義仲の子を宿しており、山中の館で子を生まれさせ大切に育てた。（湯本滋様所蔵）



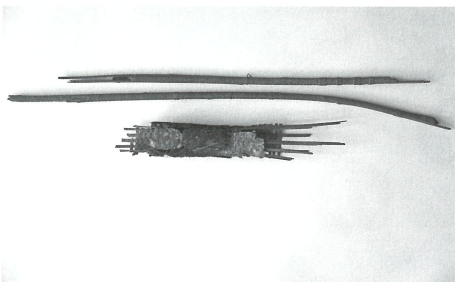
頼朝公より賜りし茶釜

1193年（建久四年）の夏、頼朝が草津を訪れた時、細野一族は名を秘して対面し、御殿介は湯本の姓と草津の土地などを下賜された。この茶釜は赤岩湯本家に家宝として伝えられた。（湯本滋様所蔵）



「宵の山本」一族の松飾り

戦が終わって大晦日に村にたどり着いた山本一族は、門松を立てて祝うことができたので「宵の山本」という。遅れて元日に帰った「明けの山本」は今でも松飾りをしない習わしである。



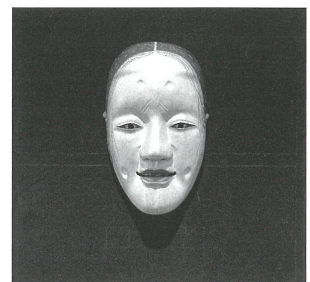
矢筒と折れた弓 (中世)

入山世立の首領・山本縫之丞は義仲を養育し、のち義仲の挙兵に馳せ参じた。竹で編み、獣の皮が巻かれた矢筒と折れた弓は、挙兵のときに使ったとされる貴重な史料である。（山本禎様所蔵）



脱武器池 (もののぐのいけ)

草津町殺生河原付近にある池。義仲の残党が世立に落ちる前に、武器を脱ぎ捨てて身軽になった場所と伝わる。「ものぐ」は山伏の白装束のことで、修験者のミツギの霊場であったともいわれる。



能面「女増髪」

日本の代表的古典芸能である能楽には源平合戦の悲話を伝える演目が少なくない。この「女増髪」は義仲の愛妾・巴御前の物語を演じる「巴」で使われる。（中之条町出身・清水和夫様作）

■ 講演「木曾義仲の落人伝説」

出演：四代目玉田玉秀斎
 日時：7月3日（日）14:00開演
 定員：190名（入場無料）
 事前申込：ミュゼ0279-75-1922
 （5月20日（金）より受付開始）

場所：中之条町ツインプラザ交流ホール

■ 館長／学芸員によるギャラリートーク

日時：4月23日（土）13:15～14:00 5月28日（土）13:15～14:00
 場所：ミュゼ企画展示室 定員：各先着15名（予約不要）

■ 次回企画展示（同時開催）

天明三年浅間焼け240回忌「災害の歴史と教訓」
 期間：令和4年7月1日（金）～8月31日（水）
 場所：ミュゼ研修室



四代目玉田玉秀斎

